

<第3回常任理事会報告> 08. 8. 24. この秋、組織強化と運動の躍進を勝ち取ろう！ ・・・第3回常任理事会具体化を検討・・・

8月23日、15名の参加で第3回常任理事会が開催され、9月7日に開催される第2回理事会に提案する秋の運動方針案の具体化を検討しました。以下、主なものを報告します。

1. 2年目の戦争と平和を考える特別旬間の取り組み

(1) 平和委員会が関係した取り組みは13ヶ所でした。ドイツの学校教育でナチスの戦争犯罪を教えるのと違い、「戦争は決して起こしてはならない事」、平和の尊さを子供や若者に伝え教える教育がされてない。原爆の事・沖縄戦の事・空襲の事などを伝えるのは、我々のような平和・市民団体や市民グループ・文化人・芸能関係者が全国各地で行っている、写真パネル展・各種つどいです。この事の意義をお互いに確認し、来年は新しいパネルを作成し、20ヶ所以上で実施出来るようにします。

(2) 特徴的な取り組みを見ますと、①北茨城では市内4ヶ所で12日間、風船爆弾・震洋など北茨城の戦争展を開催。福島TVが取材し放映。約400名。②土浦では1週間の展示期間中に映画と平和使節団報告を実施。また、15日には憲法守れの野党3党と各団体が協力して「平和のつどい」を、元市長を実行委員長にして開催。③水戸西では茨城の戦争展と戦争体験談をセットで実施。④取手では1日間のつどいでしたが、朝から夕方まで朗読・折り紙・紙芝居・歌声・ビデオなど1日中連続実施。⑤その他の地域でも工夫を凝らした催しが実施されました。

2. 情勢の大きな変化は改憲勢力の後退と国民運動の前進

(1) 昨年の参議院選挙で自民党は大敗し、いろいろな火種は残したが、世論調査でも9条守れの国民が改正派を上回り自民党・公明党内閣は改正を言いだせない状況が作られています。全国に広まった市民運動の成果である事を確認し、更に運動を強化していく事が大切です。「9条の会」の運動も新しい段階を踏まえて更に大きく発展させな

くてはなりません。

(2) 平和委員会としては「憲法守れ」から「憲法を活かす」運動へ、特に軍事費削減・自衛隊の海外派兵反対などを中心に秋の取り組みを強めていきます。

3. 具体的な秋の取り組み

(1) 全県宣伝行動：9月21日から1ヶ月をめぐり、各ブロックの常任理事を中心に行動計画や役割などを決めてもらいます。

(2) 秋の市民集会については、主催が「米軍機くるな茨城実行委員会」なので、11月3日、「くらしと軍事費」を柱に「軍事費はなぜ削減出来ないのか」「どうすれば削減出来るのか」を内容とした講演会を案として各構成団体と話し合っていて決めていきます。

(3) 新聞意見広告：①12月8日、今年は朝日新聞に掲載。②内容は軍事費削減・憲法・安保等を検討。③個人賛同1300名。団体賛同100を目標に取り組む。

4. 仲間づくり

(1) 組織の力量と運動を「発展させるも後退させるも」我々自身の取り組み如何にかかっている事を各平和委員会で話し合ってもらおう。そのために組織強化委員会・常任理事会・理事会はその先頭に立つ。

(2) 12月までに、各平和委員会が2～5名以上の会員を目標でなく実現していく。

5. 県原水協会長に加藤岑生代表理事を推薦

県原水協から要請があった、加藤さんの会長就任について常任理事会は加藤さんの決意を尊重し、推薦・派遣する事を決めました。なお、代表理事については辞任を了とし、原水協で力を発揮してもらおう事を期待します。

以上

イベント情報

小森陽一氏「憲法9条」を語る！

とき 9月6日(土) 午後1時30分から3時30分
ところ 駿優水戸 大ホール (水戸駅北口 旧教育会館)
資料代：500円(大学生200円、高校生は無料)

主催 「九条の会・水戸」
連絡先 029-252-5791 (星野文雄)
お話し 「九条の会」事務局長 小森陽一さん
「九条の会・水戸」創立1周年を記念して、「九条の会」事務局長・小森陽一さんに講演していただきます。

「九条の会かさま」学習講演会

一名古屋高裁の判決を生かそう！

とき 8月31日(日) 午後1時開場、1時30分開演
ところ 笠間公民館 会議室 資料代500円
主催 「九条の会かさま」
連絡先 0296-74-4701 (田口俊彦)
講師 川口創 弁護士

(自衛隊イラク派兵差止訴訟弁護団事務局長)

自衛隊イラク派兵は憲法違反！この画期的な判決を勝ち取った原告団の要を担う気鋭の弁護士が語ります。

「週刊新潮」表紙絵画家 成瀬政博さん 五霞町に！！

9月9日(火)、善照寺で鐘をつきませんか？

とき 9月9日(火) 午前9時集合
ところ 五霞町江川・善照寺
主催 9条の会 ごか
催し 平和を祈願して鐘をつき、9条ロゴマークの作者でもある画家・成瀬政博さんのお話を聞き、懇談します。

平和かわら版

No.509
月3回 発行
2008.8.25

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会
〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806
E-mail ibahei@amber.plala.or.jp





もの言わぬ碑(いしづみ)に 誓えるもの

北茨城9条の会 柏木裕美

2008年8月6日63回目の平和祈念式典が行われました。強い日差しが照り付ける中、肅々と式典は進められ、広島市長の平和宣言を経て、真っ青な空に多くの鳩が放たれました。

63年前の投下直前まで、式典が行われている平和記念公園には町があり、そして暑い夏の日差しが町の家々や人々を照らしていたそうです。

その名残をとどめている建物は一軒だけで、他の祈念碑や供養塔、そして平和記念館は2度と原爆を戦争の道具に使われないようにという願いと、建物疎開作業中、または朝礼中に原爆によって骨さえも残さずに消えていった人達や、原爆症によって白血病などを発症して命を落としていった人達、熱さに耐え兼ねて、川や防火用水に飛び込み溺れたり、ショックで命を落とした人達を弔いたいというおもいから建てられたものです。

祈念式典が行われる前日に参加させて頂いた。原爆の祈



原爆ドーム

念碑めぐりでガイドの方が、ある中学生からある事を言われたそうです。

「何も無い所に原爆が落ちてよかったね。」と…。

ガイドの方はその中学生にこ

う答えたそうです。「確かに、今は緑の中に祈念碑や供養塔があるだけの公園にしか見えないだろうけれど、ここには原爆が投下される直前まで中島町という町があって、多くの人達がここで生活をしていました。それが原爆の一瞬の光と爆風によって灼かれ、消し飛ばされ、島の両側

の川には水を求めて飛び込んだそのショックで命を落とした数え切れないほどの原形をとどめていない死体が、潮が満ちれば上流へ、潮が引けば下流へと流され、島には火葬を待つ死体の山が幾つも出来た。川の死体を引き揚げられるにも、島に集まった死体を埋葬するにも男手が足らず島全体に盛り土をして緑を植え、祈念碑や供養塔を建てて今に至ってるんですよ。」と…。

この中学生だけが特殊なわけでは無いと思います。地元広島の小中学生の中にも、8月6日が何故「平和記念日」なのか知らない児童生徒が増えていると聞きます。そういう子供達が増えてしまった原因は、占領軍アメリカによる原爆関連に対する厳しい報道管制(プレスコード)がその一つだったでしょう。

それともう一つは、大正、昭和といった近現代史に触れる機会、時間の少なさも問題視すべきでは無いでしょうか。もう少し、一時間でも多く昭和という時代に起きた事柄を子供達に伝えていく努力をするべきでは無いでしょうか。

今日の直接的には戦争に駆り出される事も無く、命の危険にさらされる事無く過ごしている日々には63年前の数多くの犠牲があつてこそで、その惨状を静かに残しているのが広島、長崎のもの言わぬ碑(いしづみ)の数々なのだ伝えていくべきではないでしょうか？

2度と広島のような、否、中島のような島全体が墓所のような土地を作らない為にも、私達は例え、最初は小さな声であっても、少しずつでもその声を大きくしていき、そして願いを同じくする人達を1人でも多く募っていき、「ノーモアヒロシマ」「ノーモアナガサキ」を世界中に響かせて、平和記念公園に灯されている「平和の灯」が一日でも早く消される時が来るように。

平和記念館内にある時計の原爆投下日からの日数、最後に核実験が行われた日からの日数のカウントが両方ともゼロになる日を目指していく事が公園内の所々にひっそりとたたずんでいるもの言わぬ碑(いしづみ)に誓える事ではないでしょうか。

原水爆禁止世界大会2008に参加して

土浦民主商工会 広瀬和世

原水爆禁止世界大会には初めての参加、個人的な旅行などを含めると3度目の広島訪問となります。過去2度、原爆資料館を訪れ、1度は直接、被爆者の方からお話を伺う幸運に恵まれています。

今回は、初めての記念式典への参加を含め、自らの中の



原爆供養塔

平和を再確認するいい機会となりました。

大会の中で一番心に残ったのは、熊本被団協の中山さんが述べられた、「相手の気持ちをまず汲み取ること、こちらの気持ちが伝わるようになる」という言葉で

す。自身が原爆の被害者で、侵略戦争の加害を認めるのは、簡単なことではなかったでしょう。しかし、当時の敵国であった人も含め、多くの人に核兵器を無くす趣旨を伝えていくために、まず初めに謝罪を行うその姿勢ができたそうです。我々が何かを他人に伝えたいと思ったとき、失念してしまう、大切なことではないでしょうか。

新しい出会いも含め、良い経験をすることができました。参加に当たって尽力していただいた方々に、改めて御礼申し上げます。

事務局便り
08年原水爆禁止世界大会広島大会に茨城から参加された皆さんご苦労様でした。これから各地で報告集会を開き、核兵器のない世界を二〇一〇年NPT会議に向けた署名を早目に取り組みましょう。さて、この号では寄せられた参加者の感想を全て掲載しきれませんでしたので次号にまわします。それにしても参加して若者を派遣する大切さと努力を改めて感じました。「百聞は一見にしかず」と(加)

